平成 31 年度　標準学力調査（ＮＲＴ）の結果

４月１０日（水）に全学年で実施いたしました標準学力調査（ＮＲＴ）について、

各学年・教科毎の結果、課題及び今後の対策と手立てについて、お知らせします。

１学年

（1）国語　※全国比：全国の得点率を１００としたときの値　◎5ポイント以上高い　▼5ポイント以上低い

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	９３．６	８２．９	◎１１３
話す・聞く能力	９０．４	８５．０	◎１０６
書く能力	７９．２	７０．９	◎１１２
読む能力	７２．３	６７．８	◎１０７
言語についての知識･理解･技能	６１．４	６５．５	▼　９４

【状況及び課題】

学習内容については、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」以外で全国平均を上回った。優れていたのは『書く能力』と『読む能力』で全国平均を大幅に上回っている。『言語についての知識・理解・技能』が、他の項目と比べるとやや落ちる。国語に対する興味・関心を維持しながら基礎・基本の定着を図ることが課題である。

【今後の対策と手立て】

学習内容が十分身についていない部分は、単元にあわせて既習事項の定着度合いを確認しながら、授業を進めていくように意識し、各観点の学習の定着を図っていきたい。特に「段落を考えて文章を書くこと」、「漢字を覚えて正しく使うこと」に重点を置いていきたい。そして、話し合い等の言語活動を通して思考する場面を取り入れていきたい。新たに学んだ内容をより一層定着できるように、復習の機会を適宜設けていく。

（2）社会

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	６１．２	６３．８	９６
社会的な思考・判断・表現	６１．２	６０．２	１０２
資料活用の技能	５６．７	６３．１	▼９０
社会的事象についての知識･理解	５９．９	６４．９	▼９２

【状況及び課題】

思考・判断・表現を中心とした問題についてはよくできているが、資料読解や知識理解の項目が全国平均より劣っている。特に資料読解では、写真や地図、複数の資料から必要なことを読み取り正解を自分で導く力が弱い。知識・理解では、誰が何をしたのかということ、現代のできごとに関わる分野の力が弱く感じられた。短答問題については、言葉の定着が十分に図られていない。

昨年度１年間の学習内容から出題されており、全国平均を下回った問題の多くは、年度の前半に学習した内容からの出題に集中している。

【今後の対策と手立て】

資料読解については、普段の授業の中で資料に触れる機会を増やすことで、資料慣れすることや資料を読み取る際のポイントなどを授業中に学習させる機会を設定していく。知識理解については、宿題や長期休暇、定期テストに向けての学習など様々な場面で習得させる機会を設け、定着できるように取り組んでいく。

（3）数学

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	６８．０	６７．９	１００
数学的な見方や考え方	６５．２	６４．９	１００
数学的な技能	７２．４	７２．７	１００
数量や図形などについての知識･理解	７３．３	７５．３	９７

【状況と課題】
　ほぼ全国正答率に近い状況である。基礎的な計算力が身についている。小数・分数の計算力が不十分な傾向を示す生徒が若干名いる。四角形の内角の和が 360°の知識を活用する問題や対称図形についての考察が不十分な点が見られる。

【今後の対策と手立て】
　計算力は，日頃の授業から小テスト等の振り返りを活用して，定着をはかるようにする。図形分野は，中学校でも同内容をさらに深める形で学習が予定されているので，授業の中で習熟をはかっていく。

（4）理科

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	５５．６	５１．３	◎１０８
科学的な思考・表現	５８．８	５４．８	◎１０７
観察・実験の技能	８１．７	７２．５	◎１１３
自然事象についての知識･理解	６９．２	６４．３	◎１０８

【状況及び課題】
　全観点全国平均を上回る結果となった。特に観察・実験は高い数値となっている。課題としては活用問題や記述問題が低い数値となっていることから、実験の条件や根拠を記述で説明することが苦手とする子が多いと考えられる。

【今後の対策と手立て】
　引き続き、感心・意欲を引き出すような実験・観察を丁寧に行っていく。そして、知識・理解を定着させた上で、話し合い活動などを取り入れて根拠を明確にした話し方（書き方）の指導をしていく。単元ごとに活用問題も取り入れて授業を進めていく。

2学年

（1）国語　※全国比：全国の得点率を１００としたときの値　◎5ポイント以上高い　▼5ポイント以上低い

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	７５．９	７０．０	◎１０８
話す・聞く能力	６６．４	６７．３	９９
書く能力	６９．８	６８．１	１０２
読む能力	４２．９	５１．９	▼８３
言語についての知識･理解･技能	７１．５	７４．１	９６

【状況及び課題】
　学習内容については、ほとんどの項目で全国平均または上回っている。優れているのは、『関心・意欲・態度』と『書く能力』である。しかし、『読む能力』が全国平均よりやや落ちる。国語に対する興味・関心を維持しながら言葉のしくみや表現の仕方に気を付けながら読む力を高めることが課題である。
【今後の対策と手立て】
　学習内容はほぼ定着されている。しかし、観点別でみると、『読むこと』を苦手としている。特に「文章の構成や展開をとらえてその内容を理解すること」「場面の展開をとらえること」に課題がある。文章の構成や展開の工夫などを理解しながら読み込めるようにしたい。また、登場人物の気持ちの変化やそのきっかけを文脈の中における語句や表現上の工夫等からわかるように、話の展開に注意して読むことに力を入れていきたい。

（2）社会

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	５８．５	６１．３	▼９５
社会的な思考・判断・表現	５５．５	５９．０	▼９４
資料活用の技能	６２．６	６４．５	９７
社会的事象についての知識･理解	６３．７	６８．５	▼９３

【状況及び課題】
　全分野、全出題範囲で全国平均と比較するとマイナスの結果になっている。しかし、多くの設問で全国平均と本校２学年との差はほぼない状態となっている。ただし、全体を見たときに、社会科のテストを得意としている生徒と不得意ととらえている生徒がおり、学力の二極化が進んでいる。
　昨年度１年間の学習内容から出題されており、全国平均を下回った問題の多くは、年度の前半に学習した内容からの出題に集中している。
【今後に向けて】
　普段の授業内容の見直しをすすめ、全分野での底上げを図る。そのために必要な手段として、宿題や小テストなどを多く実施して繰り返し取り組ませることで、知識の定着を図りたい。

（3）数学

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	２４．７	３３．５	▼７４
数学的な見方や考え方	３４．４	４１．０	▼８４
数学的な技能	５５．８	５６．６	９９
数量や図形などについての知識･理解	５３．９	５４．０	１００

【状況と課題】
　技能，知識・理解等はほぼ全国正答率に等しく，基礎的な計算力や知識が身についていると思われる。知識はあるが，それを，具体的な場面にうまく適用できない面があり，数学的な見方や考え方の正答率が低いと思われる。
【今後の対策と手立て】
　引き続き，基本的な計算技能の定着を目指す。授業の中で，いろいろな活用場面に触れるように問題や状況を設定する。家庭学習の中でワーク･問題集に取り組むように，指導と点検を続けていく。

（4）理科

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	６０．４	６２．４	９７
科学的な思考・表現	５３．３	５１．１	１０４
観察・実験の技能	６４．６	６９．８	▼９３
自然事象についての知識･理解	５４．４	６１．０	▼８９

【状況及び課題】

観点は全国と比べると知識・理解が低く、思考・表現が高い結果となった。実験・観察を積極的に行うが、「何のためにその操作を行うか。」などの部分が落ちていた。基礎的な問題の数値が低くなっているが、記述式、活用問題の数値が高くなっている。領域で見ると 2 年生の 3 学期に学習した内容の数値が高くなっていた。

【今後の対策と手立て】

関心・意欲がある生徒が多いので、興味を持つような観察・実験を丁寧に行っていく。基礎の内容の定着のため繰り返し確認できるような授業の進め方を行っていく。話し合い活動などで思考・表現の時間をとり、良い表現方法などクラスに広げていく。

（5）英語

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	５７．８	６４．０	▼９０
表現の能力	３３．３	４６．２	▼７２
理解の能力	６５．９	６７．６	９７
言語や文化についての知識・理解	４４．７	５９．０	▼７６

【状況と課題】

領域別では【書くこと】において正答率が低く、基本的な単語を書いたり、英文を組み立てることを苦手としている生徒が多い。活用の問題（記述式）の問題が特に低いが、基礎的な語彙や文法といった知識が定着していないことが原因と考えられる。【読むこと】、【聞くこと】は、ほぼ全国平均並みだが、対話の中で適切に応答する形式の問題の正答率が低かった。

【今後の対策と手立て】

「英単語の意味や発音はわかるが、つづりが書けない」と困っている生徒が多いので、授業の中で暗記シートを活用し、練習する時間を持ち、単元ごとに単語テストを実施し定着を図る。また、授業のはじめの５分を使い、既習の文法（語順）を繰り返し復習する機会を作り、定着を目指す。また、定着には日常的な家庭学習が不可欠なので、授業の振り返りで、復習すべき内容を確認するなどして家庭学習を促していく。

3 学年

（1）国語　※全国比：全国の得点率を１００としたときの値　◎5ポイント以上高い　▼5ポイント以上低い

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	６４．１	７０．８	▼９１
話す・聞く能力	７７．３	７７．３	１００
書く能力	５６．１	６４．１	▼８８
読む能力	６３．９	６２．４	１０２
言語についての知識･理解･技能	６８．４	７０．６	９７

【状況及び課題】

ほとんどの項目で全国平均または上回っている。特に、『読む能力』は全国平均より上回っている。二年生の内容がおおむね定着している。しかし、『書く能力』が全国平均よりやや落ちる。国語に対する興味・関心を高めながら言葉のしくみや表現の仕方に気を付けながら書く力を高めることが課題である。

【今後の対策と手立て】

学習内容はほぼ定着されている。しかし、観点別でみると、『書くこと』を苦手としている。特に、「指定された文字数で書くこと」、「自分の考え・その理由を書くこと」に課題がある。字数を設定して、自分の考えや読み取った内容を書くこと、学びの振り返り等を書くことなどを行い、『書くこと』に力を入れていきたい。また、書いた内容を話し合い等の言語活動を通して思考する場面を取り入れていきたい。新たに学んだ内容をより一層定着できるように、適宜復習の機会設けるとともに、三年間で学習した内容を繰り返し復習することで、定着させていきたいと考えています。

（2）社会

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	５６．２	５６．１	１００
社会的な思考・判断・表現	４５．５	４９．４	▼９２
資料活用の技能	６１．４	５７．３	◎１０７
社会的事象についての知識･理解	６１．０	５８．８	１０４

【状況及び課題】

思考・判断・表現の分野では全国平均と比較するとマイナス傾向が見られるものの、資料読解や知識・理解の分野の両方で全国平均を上回っている。また、短答式問題ではほとんどの生徒が良くできていた。しかし、記述式問題については全国平均を下回っている。

昨年度１年間の学習内容から出題されており、全国平均を下回った問題の多くは、歴史でいえば年度の前半に学習した内容からの出題に集中している。

【今後に向けて】

社会科のことについての知識は身についているものの、資料や問題文に書いてある正しいものを読み取る力や複数資料を比較して考える問題、歴史的事象の並び替え問題といった様々な質問形式に対応する力が身についていないので、これからの授業の中でこれらの問題に対応する力を身につけさせたい。

（3）数学

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	４４．６	４２．４	◎１０５
数学的な見方や考え方	４０．７	３８．７	◎１０５
数学的な技能	７２．１	６２．０	◎１１６
数量や図形などについての知識･理解	５５．５	５５．３	１００

【状況と課題】
全観点において，全国正答率を上回っている。技能・計算力がとても高く，基礎的な理解は満足できる状況である。１次関数，図形の証明に関わる分野で，やや不十分である傾向が見られる。

【今後の対策と手立て】
不十分な点においては，３学年にも関連する分野，２次関数や図形分野の相似といった内容の時に関連づけて，授業のなかで復習と理解を深めたい。

（4）理科

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	５１．３	５５．９	▼９２
科学的な思考・表現	５０．０	５３．５	▼９３
観察・実験の技能	６４．５	６９．５	▼９３
自然事象についての知識･理解	４７．２	５５．５	▼８５

【状況及び課題】
観点別でみると、観察・実験の技能が高く、知識・理解が低い結果となっている。領域でみるとエネルギー（電流）は全国平均より高かったが、粒子（化学反応）が大きく下回っていた学習した時期も関係していると考えられる。

【今後の対策と手立て】
これからも実験・観察を丁寧に行い、その目的や考察の確認を今以上にしっかり確認していく。また、基礎基本の定着のために、単元に関連ある１・２年の復習も授業の中で触れたり、長期休業中の課題にしたりと復習を適宜入れ、力をつけていきたい。

（5）英語

観点別	本校正答率	全国正答率	全国比
関心・意欲・態度	６８．５	６５．４	◎１０５
表現の能力	５６．０	５０．６	◎１１１
理解の能力	６８．２	６５．２	◎１０５
言語や文化についての知識・理解	６６．７	５８．４	◎１１４

【状況と課題】
全ての観点、領域で全国平均を上回ることができた。特に「言語や文化についての知識」がしっかりと身についており、日ごろの地道な努力の成果が表れている生徒が多い。しかし、正答率の分布がやや分散傾向にあり、得意な生徒と苦手な生徒との学力差が見られるのが課題である。問題の形式では、対話の流れにあった疑問文を作る問題の正答率が低かった。

【今後の対策と手立て】
日常的な家庭学習や、定期テストに向けて一生懸命取り組める生徒が多いので、今後も継続させていきたい。英語に苦手意識を持っている生徒もいるが、粘り強く努力できる子ばかりなので、自学ノートや放課後学習などでフォローアップを図る。苦手としている「場面に応じた英作文の問題」に対しては、日常の授業において、場面設定をしっかりとし、その中で自分の考えを表現する機会を多く設けることで力をつけていく。